

今号の
トピックス

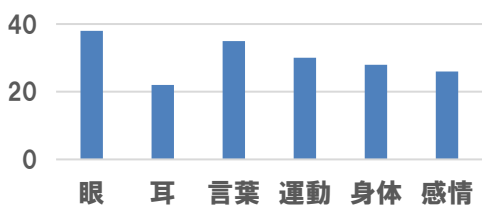
活動から見えてきたネット利用による発達障害と健康問題

今回は、養成協の教材開発委員・インストラクターの傍ら幅広い活動をしている笠松氏に寄稿いただきました。継続的な活動・調査で保護者の意識変化や児童の自覚症状の顕在化が見受けられます。ネットの利用時間が増加の一途をたどっている今、保護者や子どもの行動変容を促す私たちの活動は重要です。(編集部)

平成22年から、埼玉県ネットアドバイザーとして啓発活動を行ってきました。また、NPO法人を設立して、情報モラルの講演だけではなく、スマホ時代の子育てに特化した「親子講座はっぴー」の開催、子どもの居場所事業、困窮家庭支援、ヤングケアラー支援、非行少年の支援などの活動にも取り組んでいます。そこで見られる問題もネットの過剰使用が要因となっていることが推察されます。今回は、「親子講座はっぴー」の参加者のアンケートと飯能市立富士見小学校で令和3年度、4年度で行った学校保健委員会の子どもたちの生活習慣のアンケート(抜粋)の報告をいたします。

親子講座はっぴー

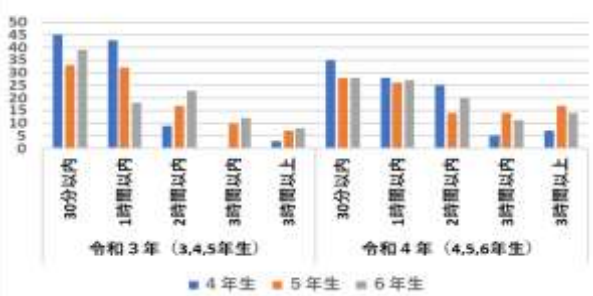
ネット使用で心配なこと(複数回答可)30人



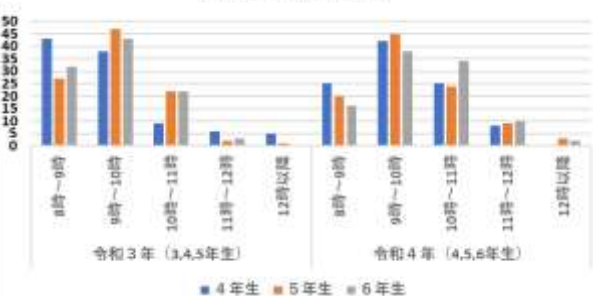
8年目の開催です。当初の保護者はネット依存にあまり関心がないようにみられました。しかし最近では保護者自身が「自分がネット依存かも」「主人はゲーム依存で家に帰らないで車でゲームをしている」とネット依存傾向であることを示し、子どもの使用を容認することで親子ともにスクリーンタイムが長くなっている姿が見受けられます。幼児期にも参加したことがある小学生の眼が気になり受診を勧めたところ、眼科の先生から、「早期にわかってよかったね」と言われたと保護者に感謝されました。発語についても支障があり、小学校に行っていじめにあった事例も対応しました。これからも、乳幼児期の発達障害は重要視しなくてはならないと思います。

飯能市立富士見小学校 学校保健委員会 (令和3年6月11日・令和4年6月10日)

4.スマホ・ゲーム機の使用時間



6.何時に寝ましたか



☆ゲームをして不安なこと☆

- ・視力が悪くなった・寝る時間が少なくなった
- ・聴力が悪くなった・ゲーム脳にならないか心配 等

インターネット利用と生活習慣の講演で、学校にご協力を頂き、2年間にわたり同一児童の経年変化をみるアンケートを行いました。その結果、学年が上がるとデバイス使用時間の長時間化と就寝時刻の遅れが明らかになりました。子どもたち自身が健康問題を考える必要だと考え令和4年2学期に大谷代表の授業を行いました。今年度も大谷代表の授業を6月に6年生対象に実施。10月には3,4年生対象に予定しています。子どもたちが、将来を見据えて自分自身の健康を考える一助になると思います。

他の小学校でも継続学年で2年続けて出前授業を行いました。子どもたちから「ゲームの時間を減らした」「睡眠時間を多くしている」「20-20-20」等の取り組んでいることを聞きました。子どもたちが意識をして自己改革できる活動に取り組んでいきたいです。(笠松)